



SESERAGI—MISHIMA  
ROTARY CLUB  
WEEKLY REPORT

クラブ  
週報

2014～2015年度 RI会長 ゲイリー C. K. ホアン  
RIテーマ ローターに輝きを

クラブテーマ「感謝の心で出席しよう」会長 矢岸貞夫

副会長 鈴木政則 幹事 小林 勝

第1225回 例会  
2015.4.10(金)曇

司会:岡 良森君 指揮:岡 良森君  
ロータリーソング「我等の生業」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央町ビル2F  
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 ブケ東海三島

TEL.055-984-0120  
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 矢岸貞夫君



皆さんこんにちは、本日は例会場変更して米山梅吉記念館周辺の清掃奉仕作業をやる予定でしたので先日下見に行きました。あまりにも綺麗に手入れがされていたので変更して通常例会を行うことになりました。

また我がクラブ会員の石井和郎さん(ビル住宅管理)が先週水曜日に社員5人で記念館全体の窓ガラス、窓枠、会議室、玄関などを清掃して下さり大変綺麗になりました。お陰さまで会場が綺麗になったので、今日の例会は清々しい気持ちで例会を行う事が出来ました。4月25日の春季例祭(命日祭)も気持ち良く行う事が出来ると思います。石井さん有難うございました。(感謝、感謝です。)例会では、食事の後、墓参、そして市川さんより館内の説明を受けました。市川さんの話術とその内容に出席者全員で感心しました。

米山梅吉翁が日本に初めてロータリークラブ(東京ロータリークラブ)を創立したのは大正9年(1920年)53歳の時です。その後、色々のことが起こり僅か20年間で昭和15年(1940年)9月に東京クラブを解散し国際ロータリーから退会しました。米山

梅吉翁は昭和21年(1946年)4月に亡くなりましたので、昭和24年日本のロータリーが国際ロータリーに復帰しました事を知りません。米山梅吉記念館は、昭和44年(1969年)創立、その12年後隣接地取得、平成10年新館建設の歴史を経て今日に至っています。

平成14年11月RI会長の公式訪問を受け、ロータリアンの意識も高まり、来館者も増加しております。全国のロータリアン、及びその関係者を受け入れる日本唯一の施設でありRI2620地区は施設を支援するため地区委員及びガバナー委託の運営をもって組織的に支援しています。

地区組織は地区委員5名と24名の運営委員が選出されています。委員会活動は、記念館の命日祭(春季例祭)、創立記念祭(秋季例祭)や来館される方の案内、いくつかの奉仕作業などがあり記念館と密接な連絡を取り、記念館の円滑な運営と発展のため、支援、協力する事にあります。

運営委員の皆さんとともに記念館の支援をしていきたいと思ひます。

出 席 報 告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	22/36	61.11%	32/36	88.89%
今回	21/37	56.76%	会員総数	39名
欠席者	あなたが見えなくて残念でした。			

石井(司)君、内田君、太田君、大房君、久保君、小島君、篠木君、杉山(隆)君、鈴木(真)君、田中君、土屋君、中山君、服部君、望月君、山口(辰)君、渡邊君



## 米山梅吉記念館館内見学・墓参



## ROTARY NEWS

### 競馬場でのロータリー推進イベント

インドのロータリー会員が、競馬場に詰めかけた数万人の観客を前に、ロータリーを紹介するイベントを開催し、クラブ奉仕プロジェクトへの寄付35万ドルを集めました。

レースの合間には、白と黒の2つのグループに分かれた650人の会員が、芝生で大きな馬の形をつくって並び、目の部分にはロータリーの歯車があしらわれました。

インド西部のロータリー会員たちは、社会のさまざまな人たちが集まる競馬場で「人類のためのレース」と銘打ったこのイベントを実施するアイデアを思いつきました。そこで、その競馬場の運営にかかわっていたロータリー会員、グラムA.ヴァンヴァティさんが競馬場に働きかけ、11月23日に行われた8つのレースのうち7つに、地元ロータリークラブが計画している奉仕プロジェクトの名前を付けてもらいました。

識字向上、子どもの健康、教育支援などに取り組むこれらのプロジェクトのために、各クラブは、レース開催日までに50,000ドルの寄付を集めました。レースに賭けることは、イベントの一環として奨励されませんでした。

イベントではまた、子どもたちのためのファッションショーや、アート教室などが行われたほか、全国で展開されている清掃キャンペーンの一環として、清掃活動も実施されました。

このイベントには、6,000人を超えるロータリー会員が参加。クラブのリーダーが、観客を対象に1,500の入会勧誘キットを配布しました。競馬場への道筋にはロータリーカラーの飾りやロータリーの旗、そして、ありとあらゆる場所にはバナーが飾られ、また競馬場のスクリーンで、ほかの競馬上でのレース結果に加えて、ロータリーの公共奉仕広告ビデオが再生されました。

「巨大な屋外会場で、ロータリアンだけでなく、家族やロータリアン以外の人々との交流を行えたことは、ロータリーにとってとても意味のあることだ」と語るヴァンヴァティさん。「バナー、ビデオ、その他の視覚的な広告を通じて、ロータリーの活動をアピールでき、新聞、ラジオ、テレビでも報道されました」。地元のロータリークラブとイベントを共同主催した第3140地区のガバナー、アジェイ・グプタさんは、「たくさんのロータリー会員と集って国歌を歌い、国旗とロータリーの旗が同時に形容されるのを見るのはとても素晴らしかった」と語ります。

ロータリー財団の元管理委員、アシヨク・マハジャンさんはこう述べています。「このイベントによって多額の募金が集まり、地区内のロータリー会員が交流し、ロータリアンの親善が強調できたばかりか、インドにおけるロータリーの規模とネットワークをたくさんの人々にアピールできました」